

学校教育目標	○思いやりのある子(徳) ○学び合う子(知) ○たくましい子(体)	【目指す学校像】	児童にとって学ぶ喜びや居場所があり、小さな希望をつなぎ、可能性を広げる学校
		【目指す児童像】	【心を育てる】 自他を受け止め、しなやかに対応し、前向きな気持ちをもつ児童 【言葉をつむぐ】 多様な他者とかかわり、建設的に根気強く考え、適切に表現する児童 【体をつくる】 自分の可能性を実現する体力を身に付け、健康な生活を送る児童
		【目指す教師像】	専門職としての自覚と誇りをもち、常に相手から学び、チームで課題を解決できる教師

領域	中期経営目標 (3年間)	短期経営目標 (1年間)	具体的方策	取組指標	評価	成果指標	評価	評価結果について		
言葉をつむぐ	児童に学習の基礎となる基礎的・基本的な知識及び技能を確実に習得させるとともに、学習習慣を身に付ける。	児童が言葉や数量・図形などについて豊かにイメージできるよう児童の認知や身体に着目して指導方法を工夫し、学習への理解を深める。	①対象児童の状況を把握し、アセスメントの結果を踏まえた各教科等における授業改善を行う。 ②音読、暗唱、視写等、能動的な読字や書字を日常的に実施する。 ③各教科等で多様な表現活動、鑑賞活動を実施する。	4 ほぼ計画通り実施した 3 70%以上程度計画通り実施した 2 60%以上程度計画通り実施した 1 計画的に実施できなかった	3.5	4 改善した対象児童の割合が80%以上だった 3 改善した対象児童の割合が60%以上だった 2 改善した対象児童の割合が40%以上だった 1 改善した対象児童の割合が40%未満だった	3.0	・アセスメントツール活用の研修も行き、学級や児童の状況について把握し、学習指導の工夫・改善に臨んだ。 ・はちおうじっ子ミニマム、ベーシックドリル診断テスト等の結果、対象児童の66%に顕著な改善が見られた。 ・改善率は低学年で高い傾向がある。低学年の学習支援が大切であることが改めて分かった。今後も継続して取り組む。		
			④学校図書館の活用、書籍資料(書籍・図鑑・辞典・辞書等)の活用を1か月に2度以上実施する。 ⑤八王子市情報活用系統表に示された技能を習得させるとともに、児童がデジタル、アナログの双方を活用する場面を設定する。	4 ほぼ計画通り実施した 3 70%以上程度計画通り実施した 2 60%以上程度計画通り実施した 1 計画的に実施できなかった		4 デジ・アナ双方を活用できる児童が80%以上だった 3 デジ・アナ双方を活用できる児童が60%以上だった 2 デジ・アナ双方を活用できる児童が40%以上だった 1 デジ・アナ双方を活用できる児童が40%未満だった			3.0	・子どもたち、教員ともに、端末なしには授業の展開が考えられないほどに活用が進んでいる。一方でアナログの効果の高さを改めて感じる場面が多くあった。アナログでの体験がデジタル活用の基盤となるようにする工夫は今後ますます重要になってくると考える。 ・端末の使い方について、ルールを徹底していくことも必要である。
			⑥効果的な家庭学習の課題を工夫して提示し、家庭学習習慣を定着させる。	4 毎日取り組ませた 3 週3回程度取り組ませた 2 週2回程度取り組ませた 1 家庭学習を計画的に実施できなかった		4 家庭学習が身に付いた児童の割合が80%以上だった 3 家庭学習が身に付いた児童の割合が60%以上だった 2 家庭学習が身に付いた児童の割合が40%以上だった 1 家庭学習が身に付いた児童の割合が40%未満だった				
		各教科等において主体的・対話的で深い学びを実現する力を育てる。	⑦児童が課題や学び方を選択する場面、見通しをもったり振り返ったりする活動を設定し、授業のねらいを達成する指導を工夫する。 ⑧全教職員が、校内研究テーマに基づいた研究授業、公開授業、授業観察等を行う。	4 ほぼ計画通り実施した 3 70%以上程度計画通り実施した 2 60%以上程度計画通り実施した 1 計画的に実施できなかった	4 主体的に学習をしている児童が80%以上だった 3 主体的に学習をしている児童が60%以上だった 2 主体的に学習をしている児童が40%以上だった 1 主体的に学習をしている児童が40%未満だった	3.8	・子どもたちに「委ねる場面」を設定することをテーマに校内研究を進め、7回の実践授業を実施した。うち2回を市内小中学校の教員に公開した。子どもたちの主体的な姿が見られ、充実した学習活動となった。 ・子どもたちの状況や特長によって、「委ねる」場面や方法に工夫が必要であることがわかった。今後も研究を継続していく。			
			教員の学習指導力を向上させる。	⑨5・6年生において一部教科教科担任制を試行し、その他の学年も交換授業等の実施を推進する。	4 ほぼ計画通り実施した 3 70%以上程度計画通り実施した 2 60%以上程度計画通り実施した 1 計画的に実施できなかった			4 「授業が分かりやすい」と回答している児童が80%以上だった 3 「授業が分かりやすい」と回答している児童が60%以上だった 2 「授業が分かりやすい」と回答している児童が40%以上だった 1 「授業が分かりやすい」と回答している児童が40%未満だった	3.7	・5・6年生共に国語・社会・理科において教科担任制を実施し、4年生も交換授業を実施した。 ・教員が教材研究等を深めて授業に臨むことができた。子どもたちを複数の教員で見守ることができるというメリットも大きく感じた。 ・時間割の編成や教員の欠員への対応が課題である。
				自他を受け止め、困難な状況であっても前向きに対処しようとする態度を涵養する。	⑩総合的な学習の時間、生活科、特別活動等において、地域、異学年等、他者と協働した体験活動、「学びを伝承する活動」を計画的に実施する。 ⑪キャリアパスポート等を活用した振り返りの指導を実施する。			4 ほぼ計画通り実施した 3 70%以上程度計画通り実施した 2 60%以上程度計画通り実施した 1 計画的に実施できなかった		
	落ち着いた学習環境を維持する。	⑫散田スタンダードに基づき学習規律を確立するとともに、横山中学校区の取組を踏まえ、児童の実態に応じてスタンダードの見直しを行う。 ⑬教室を始め校内の清掃を徹底するとともに、学校の環境整備を推進する。	4 ほぼ計画通り実施した 3 70%以上程度計画通り実施した 2 60%以上程度計画通り実施した 1 計画的に実施できなかった		4 落ち着いて学習に取り組んでいる児童の割合が80%以上だった 3 落ち着いて学習に取り組んでいる児童の割合が60%以上だった 2 落ち着いて学習に取り組んでいる児童の割合が40%以上だった 1 落ち着いて学習に取り組んでいる児童の割合が40%未満だった	3.8	・児童アンケートから、子どもたちは学習規律に対する教職員の指導についてよく意識している様子が伺える。定着については個人差が大きい。引き続き家庭・地域と連携して取り組んでいきたい。 ・子どもたちは清掃活動によく取り組んでいる。外壁工事により外観はリフレッシュした。校舎内については引き続き、清掃を整備していきたい。			
		配慮を要する児童や家庭への対応を組織的に行う。	⑭不登校、いじめ、教育ニーズのある児童や家庭への対応策を考え、実施する。		4 迅速に情報共有し、組織的に対応することができた 3 情報共有し、組織的に対応することができた 2 情報共有と組織的な対応が遅れた 1 情報共有と組織的な対応ができなかった			4 対象児童のほぼ全員に状況の改善が見られた 3 対象児童の多くに状況の改善が見られた 2 対象児童の一部に状況の改善が見られた 1 対象児童のほとんどに改善が見られなかった	3.8	・家庭や関係機関と連携して組織的に対応し、状況の改善に努めてきた。困難な状況が継続しているケースは引き続き対応していく。 ・いじめの防止については組織的な対応が進む一方で、情報共有の不足により対応が後手に回ってしまう案件もあった。引き続きアンテナを高く張り見守りを続けていきたい。
	特別な配慮を必要とする児童への指導・支援を充実させる。		⑮学校生活支援シート及び、(連携型)個別指導計画を保護者と共有し、目標達成のための指導を充実させる。		4 ほぼ計画通り実施した 3 70%以上程度計画通り実施した 2 60%以上程度計画通り実施した 1 計画的に実施できなかった	4 対象児童のほぼ全員に困難の軽減が見られた。 3 対象児童の多くに困難の軽減が見られた。 2 対象児童の一部に困難の軽減が見られた。 1 対象児童のほとんどに困難の軽減が見られなかった。	3.7	・個々の教育ニーズを踏まえ、特支CDを家庭や関係機関とも連携して支援を実践し、多くの困難の軽減につながっている。引き続き、指導・支援の工夫・改善を行い目標の達成を目指したい。 ・めぶぎ集会、くぬぎ集会を始め理解教育も充実させた。		
		児童の体力向上を向上させ、生活習慣の改善を図るとともに、健康の保持増進を実現させる。	⑯東京都統一体力テストの結果を活用し、体力調査を活用した取組を行い、体力を向上させる。		⑯体力テストの結果から、重点取組項目を設定し、体育の授業、散田ハッスルタイム、集会活動、ロング昼休み等を通して、児童が楽しく運動できる体力向上の取組を計画的に行う。	4 ほぼ計画通り実施した 3 70%以上程度計画通り実施した 2 60%以上程度計画通り実施した 1 計画的に実施できなかった			4 重点項目で向上が見られた児童の割合が80%以上だった 3 重点項目で向上が見られた児童の割合が60%以上だった 2 重点項目で向上が見られた児童の割合が40%以上だった 1 重点項目で体力の向上が見られた児童の割合が40%未満だった	3.2
	基本的な生活習慣を身に付け、けがや事故を防止し、健康の保持増進に取り組み、自他の生命を守る態度を身に付ける。		⑰保健指導、学級活動、体育(保健)等で児童自身が、基本的な生活習慣や病気の予防及び自他の生命を守ることにについて考え、自身を振り返る指導を計画的に行うとともに、各教科等において安全指導を確実に行う。		4 ほぼ計画通り実施した 3 70%以上程度計画通り実施した 2 60%以上程度計画通り実施した 1 計画的に実施できなかった	4 事故やけがの防止、健康な生活を意識している児童の割合が80%以上だった。 3 事故やけがの防止、健康な生活を意識している児童の割合が60%以上だった。 2 事故やけがの防止、健康な生活を意識している児童の割合が40%以上だった。 1 事故やけがの防止、健康な生活を意識している児童の割合が40%未満だった。	3.5	・児童アンケートから、事故防止についての意識が向上している様子であるが、指導が行動変容につながらない面もある。引き続き取組を行う。 ・感染症予防への意識は児童・保護者共に高い様子が見られる。 ・心身をコントロールするスキルについて児童の関心をさらに高めていきたい。		
			食事の重要性を理解し、食文化等についての関心を高めるとともに、食に関する人々への感謝の気持ちや、食事のマナーを大切にしようとする。	⑱「日本遺産献立」や「学ぼう！食べよう！世界の料理」など、トピックメニューについての学習を月2回程度実施するとともに、喫食の時間を十分に確保し、日常の給食の中で「味わう」指導を行う。	4 ほぼ計画通り実施した 3 70%以上程度計画通り実施した 2 60%以上程度計画通り実施した 1 計画的に実施できなかった	4 給食を味わって食べようとする児童の割合が80%以上だった。 3 給食を味わって食べようとする児童の割合が60%以上だった。 2 給食を味わって食べようとする児童の割合が40%以上だった。 1 給食を味わって食べようとする児童の割合が40%未満だった。			3.2	